

平成 27 年度 第 1 回 二宮町地域公共交通活性化協議会議事要旨

開催日時	平成 27 年 6 月 22 日 (月) 10:30~12:10	
開催場所	二宮町町民センター 2 階 2A クラブ室	
主席者	委員	出席 16 名 (うち代理出席 3 名)、欠席 4 名
	その他	随行者 2 名、傍聴 4 名
	事務局	政策部 4 名、都市経済部 2 名、健康福祉部 1 名
会議次第	1. 開会 2. 会長及び副会長の選出について 3. あいさつ 4. 議題 (1) 平成 26 年度 歳入歳出決算について (2) 二宮町生活交通確保維持改善計画 (案) について (3) コミュニティバス・デマンドタクシーの利用状況 (4) デマンドタクシーの運行見直しについて (5) 公共交通利用促進検討委託事業者の選定について (6) 今後の展開について (7) その他 5. 閉会	

協議会委員出席名簿

No	氏名	所属	出欠	備考
1	長尾 秀美	二宮町	○	
2	平岩 敦	神奈川中央交通株式会社	○	
3	石川 哲也	相模中央交通株式会社	○	
4	山崎 利通	社団法人神奈川県バス協会	○	
5	露木 幸一	社団法人神奈川県タクシー協会	○	
6	植田 芳裕	二宮町地区長連絡協議会	○	
7	芳賀 真郎	二宮町老人クラブ連合会	○	
8	稲葉 通隆	二宮町 P T A 連絡協議会	×	
9	一石 洋子	二宮町議会議員	○	
10	高見 利和	一般公募	×	
11	依田 久司	一般公募	○	
12	三上 弘良	国土交通省関東運輸局神奈川運輸支局	○	代理 (永井)
13	安達 敏行	神奈川交通運輸労働組合	×	
14	具嶋 久光	神奈川県平塚土木事務所	○	代理 (戸田)
15	寶珠山 正和	神奈川県県土整備局	○	代理 (北村)
16	成川 一	二宮町都市経済部	○	
17	高崎 雅弘	神奈川県大磯警察署	○	
18	山口 拓	J R 東日本旅客鉄道株式会社	×	
19	大森 宣暁	宇都宮大学大学院工学研究科	○	
20	諸星 勉	二宮町健康福祉部	○	

## 議事概要

- 1 開会
- 2 会長及び副会長の選出について
- 3 あいさつ
- 4 議題
  - (1) 平成 26 年度 歳入歳出決算について
  - (2) 二宮町生活交通確保維持改善計画（案）について
  - (3) コミュニティバス・デマンドタクシーの利用状況
  - (4) デマンドタクシーの運行見直しについて
  - (5) 公共交通利用促進検討委託事業者の選定について
  - (6) 今後の展開について
  - (7) その他

◎は会長、○は委員、●は事務局の発言

### ・議題（2）について

- 資料 2 の 14 であげられている、主な議論に対して、どういう議論をしてどういう結果を得られたのかわからない。もっと明確にすべきではないか。
- 別表 2 は予算なのか。1 回のサービス提供あたりの所要時間が 1 時間となっているが、次頁の記載要領に基づき小数点まで、もっと詳細に記載すべきではないのか。
- 資料 2 については、国の補助金申請の書類であり、決められた様式で記載要領に基づき記載すべき内容を網羅している。また、この補助申請は町全体の事業に対してではなく、国から不便地域相当と指定を受けたエリアで富士見が丘の一部と山西の一部に対してであり、そのエリアの居住者が別表 5 に示した 558 人分であり、その人数に対して補助金の限度額が算定されるものである。あくまでも補助申請のための書類として見ていただきたい。

### ・議題（3）について

- まず現在の運行状況では多くの課題があると認識の上、それを前提とした解決策を考えていかなければならないと考えている。

### ・議題（4）について

- 利用者の事前登録を変更する場合のメリットは何か。
- 居住者の親族や友人が、居住者のお宅を訪問する際に、これまでは登録対象外であったので、利用できなかったが、登録が可能となることで、居住地域外の親族や友人も利用できるようになる。
- ◎ 地域からその様な要望があったということだったと思うが。
- その通りです。
- 親族や友人だけでも利用できるのか。それとも居住地の登録者との同乗が条件となるのか。
- バスなどの公共交通と同様に、登録さえしてあれば、どなたでも単独で利用できる。
- 割引運賃については、2 ヶ月間のキャンペーンということであるが、この間に利用状況等

定量的な検証を行い、結果が良ければ、キャンペーンを延長するとか、常態化するということになるのか。

- まずは、2ヶ月間の利用状況を検証したい。その結果、利用者からも継続の要望があり、予算的なことも踏まえて、継続ができるということになれば、この協議会にもお諮りして、変更していくことになる。
  
- 地域からは、今回対応したことの他にどのような要望があるのか。
- 多岐にわたる要望を確認している。行き先の追加など目的地に関する要望が多い。その他には、予約の手間、30分前というのをもう少し短くして欲しいなどの要望や、料金をもう少し安くして欲しいという要望もある。また、そもそも利用の仕方を知らないなどの声もある。
- 認知不足を解消するための対応などは考えているか。
- 地区に出向いて説明会などを継続して行っている。前は、地区の合同役員会に出向き、意見等を伺った。また、この後の議題でも説明するが、アンケートを実施予定である。
- これまでもアンケートをしているが、そのやり方などの反省を踏まえた工夫する点はあるのか。
- これまでのアンケートは説明会に参加された方などに行ってきたが、今回は地域にも協力してもらい、対象地域全世帯へのアンケートを考えている。具体的には、まだ、確定したものではないが、配布、回収を自治会経由でお願いできたらと考えている。自治会経由の方が、通常の郵送配布、郵送回収よりも回収率が高くなることが期待できる。
  
- 現在、利用している方の希望を確認することも重要だ。利用の際にドライバーとの会話で、ある程度事業者が把握している情報もあるのではないかと。このあたりの情報もアンケートとは別に収集して役立てていくとよいと思う。私は福祉有償運送を行っているが、目的として病院に行けないというのが不便だということを知ったことがある。将来的には、対象地区だけでなく町内誰もが、外出できる、移動ができるようになることが、この地域で暮らす安心感にもつながると思う。特に病院は生命にも係ることなので、この地区だけでなく、町全体での潜在的な要望、希望と捉えておく必要があると考えている。したがって、現在は路線バスが利用しにくい地域に限定した運行となっているが、路線バスがあるところに住んでいても利用しにくい状況の人など、将来的には、どの地域に住んでいても、誰もが独りでも移動できるようになることを目指して、利用の仕方などを考え、アンケートなどを通じて吟味していくことが必要だと思う。現在の地域だけが優遇されるようなものは、公共交通として本来的ではないことを前提として、考えて行く必要はある。
- ◎ 事業者さんの方で、利用者の要望などの情報はありますか。
- 先ほどの事務局の話にもあったが、目的地の多様化についての意見はきいている。
  
- 地域では、これまでも東海大学大磯病院に行けるようにして欲しいという要望を出しているが、実現されない。何故行けないのか、どうして対応できないのか理由を教えて欲しい。
- 二宮駅と富士見が丘地区を通して東海大学大磯病院を結ぶバス路線があり、デマンドで直接病院に行けるようになってしまうと、この路線の利用者を減少させてしまう可能性があり、

既存路線の経営を圧迫してしまう可能性が高い。もちろん、目的地に直接行けるようになることが望ましいと思うが、どこにでも行けるようになったら、タクシーと変わらない利便性となってしまう。デマンドタクシーで駅までいけば、大磯病院行きの路線も利用できる。乗換の手間がかかるが、デマンド地域と交通結節点を結ぶことで、まず移動を確保する必要があると考えている。

- 一度、駅まで出て、病院に行くということであれば、他の地域と変わらない。不便地域に指定されているのに、わざわざ駅やバス停まで出て、そこから通常のバスで行くというなら、地域を指定している意味はない。不便地域を指定している以上、それを前提とした公共交通のあり方、地域の高齢化の状況なども含めて今のような考え方ではまずいのではないか。
- 町全体の話になってくると思うが、外出の不自由な方については、福祉の部分で現在でもタクシーの補助なども行っている。もちろんドアツードアで全ての町民が病院まで行けるようになるのが一番良いのかもしれないが、それが持続できないものでは意味が無い。財政的なことも踏まえて、どのように公共交通を考えていくのかというのが、この会議の役割だと認識している。

まず、町の公共交通を考えて行く上で、既存のバス路線が大切である。それを皆さんが使っていければ、バス路線も維持されて、足も確保される。しかし、なかなかそうもいかないということで、コミュニティバスやデマンドの運行を始めたのが現状である。今後は、さらに高齢化により運転免許を返納しなければならないような高齢者が増えていくことも踏まえて、町全体で皆さんの足を確保していくためには、どう確保したらよいか。しかも、それを持続させていくためにはどうしたらよいか。たとえば、ここからここまでは路線バス、ここからここまではデマンドタクシーあるいはコミュニティバスとし、さらにそれを持続していくことができるように、公共交通を使って自家用車の利用を控えましょう。というような考え方の浸透も合わせて、事務局の方でも地区に出向いて、やっていく必要があると考えている。

交通不便地域の話については、実際にはバス停からの距離ということで考えると、二宮町には公共交通不便地域は無い。今回、国からの指定を受けているのは、距離ではなく、バス停までの山坂が厳しいという理由であり、それが、富士見が丘の一部と山西の一部にあるという状況です。場所によって、適した交通手段があると思うが、それがひとつの手段でできればよいが、そうできないことも多いので、うまくすみ分けをしながら、持続可能な方法を地域の方々と考えていこうというのが現状で、そのあたりの取組について、この後の議題でも説明する。

- ◎ 病院についての状況は、今の事務局の説明でわかったと思うが、2ヶ月間のキャンペーンでやってみることはできないだろうか。実際に、どれだけのバス利用者が転換するのかわからないので、それを確認する意味も含めてやってみることはできないか。
- 試験的という話ではあるが、よく一人くらい利用者が転換してもということ言われるが、確かに1回は200円程度であっても、日常的に利用されている方であれば年間で考えるとそれなりに影響はある。特に運行状況が厳しい路線での影響は大きいので、慎重に判断して欲しいというのが事業者からの意見である。たとえば、バス停までデマンドでアクセス出来るようにするというアイデアもあると思う。

- 高齢化に向けて、事業者の方でも何か対応を考えているのか。
- 高齢化についてだが、正直にいうと高齢者の利用は、通勤・通学者と比べると、利用回数が落ちるため、どうしても運行本数を維持するのが難しく、運行回数は減らさざるをえないのではないかと考えている。維持していくために路線の再編なども考えて行く必要はあるが、現在のお客様もいることも考えながら進めていかなければいけないので難しい。これは二宮町だけに限ったことではなく、都市部などでも同様な問題を抱えている。

利用環境としては、ワンステップ、ノンステップなどのバリアフリー対応は進めている。

やはり、バス事業者としては、不便ではあるかもしれない、出来る限りバス停まで歩いていただき、一便に大勢の方に乗って頂けるように考えて欲しい。そうすれば、なんとか路線を維持していくことができる。反対に、これが違う交通に流れていくようだと、維持していくことは難しい。

- 1年ほど前に、富士見が丘地区でバス事業者にバス路線の再編の検討をお願いしたことがある。その時は、にのタクを運行している地域なので、バス事業者としては、二重投資はできないという回答であった。確かに、地域が路線バスでいくのか、にのタクでいくのか、明確にしなければならないと思う。

これは個人的な意見であるが、やはりバス路線を山坂も考えて、利用者が利用しやすいような路線をバス事業者に提案してもらい、それを前提としたにのタクの使い方を地域で考えればよいと思う。

- ◎ タクシー事業からも何か高齢化への対応ということについて意見はないか。
- 日本が抱える大きな問題であり対応は難しい。だからこそ、移動を面で捉え、バスやタクシーで役割を分担しながら、皆さんと歩調を合わせ、考えていかなければならないと思っ  
ているが、事業者として明確な方針を示すことは難しい。現状では、そのような事を考えながら、この会に参加している。

- ◎ ありがとうございます。委員の方から、現状について、さまざまな課題が提議されたが、二宮町の公共交通については、平成23年度よりこの協議会で議論を積み重ね、様々な課題を検討し、今の運行になっている。現状が最善だということではないし、状況も変化しているので適宜見直しも必要ではあるが、これまでの議論の積み重ねも理解して議論して欲しい。

- 前回の議論で、目的地も含めて検討するという話であったが、その中で大磯病院も含めて検討を行ったのか。

- 目的地も含めた検討というのは、経費的な検討のことで、たとえば利用者の多い駅だけに目的地を限定すれば、運行経費を抑えることができる。他にも温水プールは利用者が少ないので、目的地から外せば経費を抑えられるが、介護教室での利用などもある施設となっていることも踏まえて、今回の見直しは見送った。

#### ・議題（5）について

- コンサルタント（アルメック VPI）の業務実績のなかに、成功して活発に公共交通が利用されているような事例があるのか。これまでの検討に携わっているということだが、今の状

況には満足はできない。このような状況が続くのでは困る。本当にこのコンサルタントにお願いすることが妥当なのか。

- 選定理由の大きな理由は、現在の連携計画の策定に携わっており、状況をよく把握しているというところである。また、牛久市では公共交通ネットワーク計画から運行計画、利用促進まで携わっており、コミュニティバスの利用も活発になってきている事例と聞いている。神奈川県内でも相模原市において、モビリティ・マネジメントなど公共交通の利用促進に携わっており、今年度二宮町で検討を考えている公共交通導入ルールづくりについても、相模原市の事例などをよく理解していることから、アルメックVPIを選定した。
- ◎ 多くの経験があるコンサルタントと認識している。これまでの計画も他のところであったら、もっと問題になっていたかもしれない。そもそも、コンサルタントが計画をつくるのではない。あくまでもお手伝いであって、実際に計画をつくり、どんな公共交通を運行させるかを議論しているのは、皆さんであり、この協議会であることを理解して今年度も検討をお願いしたい。

・議題（6）について

- 移動町長室でアンケートをすることであるが、事前に住民同士が話し合えるような場は設けられないか。これから未曾有の高齢社会を迎えるにあたって、公共交通についても、住民一人ひとりが話し合い、作り出していけるというビジョンを与えることが大事である。そういった情報を提供出来る場、町民がそのような機会をつくって欲しいと言える場を移動町長室の前にやって欲しい。

また、交通だけでなく行き先などの移動の目的、地域の日常生活のデザインも含めて、住民が話し合える場をつくっていただきたい。

- ◎ それはワークショップのようなことをやるイメージなのか。
- そのようなイメージだ。デマンドタクシーを続けていくとしても、個人個人が不満を言うような場ではなく、話し合える場が必要だと思う。
- 移動町長室では、各地区に出向き、町のさまざまな状況を説明する場である。全町的にやっており、公共交通の状況も説明するので、そこに参加していただいた方にアンケートをすることである。意見にあったワークショップのような場については、別途、デマンドエリアである富士見が丘地区においては、引き続き話し合いの場を設けていく。また、アンケートも実施する。地域公共交通導入ルールづくりの検討にも、地区の意見を伺いながら反映させていきたいと考えている。

- アンケート内容で、主な移動理由と移動手段（5、10年後の想定）とあるが、この発想は重要だと思う。世代によってニーズが異なるので、世帯主だけでなく、それぞれの世代のニーズが把握できるようなアンケートにして欲しい。

- ◎ 事務局は、意見が反映できるようにアンケートの設問を工夫してください。

- いくつか全国の事例をみても、二宮町は特殊なところがあると思う。コミュニティバスもデマンドも他地区ではもっと広いエリアで運行させているが、二宮町はそもそも町域も狭く、

山坂はあるが限られたエリアでの運行となっている。このようなエリア条件の中で、クルマをどのように使うのか。モビリティ・マネジメントの考え方も踏まえつつ二宮町でのクルマの利用条件も含めて、公共交通のあり方を考えた方がよいと思う。その中でも従来からの路線バスの活用と歩行環境や自転車走行環境などの整備とセットで二宮町エリアの移動環境を整えるという方が、財政的にも負担が少ないと思う。さらに高齢化が進む5、10年後には、福祉タクシーなどもあるが、そういった交通も含めて、全体の移動システムを考えておく必要がある。国交省には全国様々な事例があるだろうし、委員長、コンサルタントにも多くの情報があると思うので、その中から二宮町に合う情報を提供していただき、考えていきたい。

◎ 議題は以上になるが、本日も多くの意見があった。

平成28年10月には、現在運行しているコミュニティバスやデマンドタクシーの本格的な見直しを行うことが示された。その上でも今年度の検討は非常に重要なものとなる。委員からの意見にもあったように、生活全体のデザインも含めて、この二宮町で町民がどのような暮らしをしていくことを望んでいるのか、土地利用などの都市計画と合わせて地域公共交通についても考えていく必要がある。

以上